

ベースラインの算定方法に関する資料

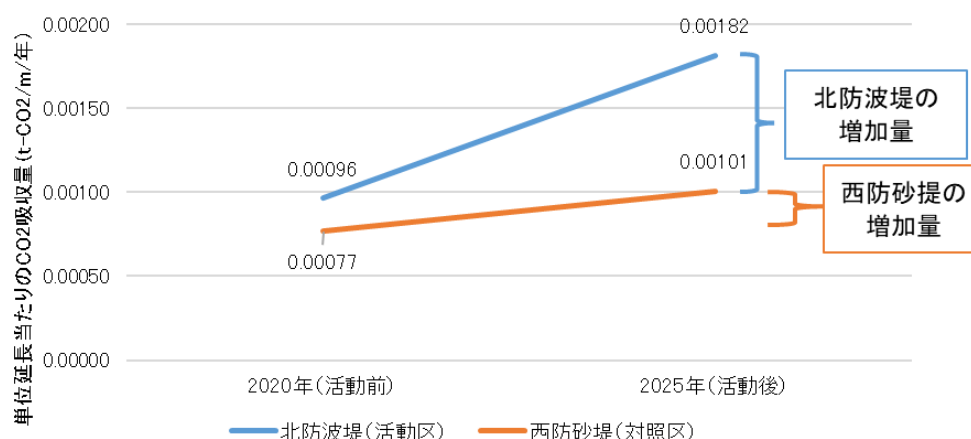
駆除区と対照区では単位延長が大きく異なるため、直接の比較は適切ではない。そこで、両区の吸収量を単位延長あたりに変換し、その値同士を比較した。また、駆除区と対照区の比較(Control-Impact)だけではなく、プロジェクト実施前後の比較(Before-After)を行うため、駆除区及び対照区のいずれでも、現地調査時から活動開始前のCO₂吸収量を差し引き、その後両区間の吸収量を比較した。

単位延長当たりの認証対象吸収量

$$\begin{aligned}
 &= (\text{単位延長当たりの駆除区吸収量 (活動後)}) \\
 &\quad - \text{単位延長当たりの駆除区ベースライン吸収量 (活動前)} \\
 &\quad - (\text{単位延長当たりの対照区吸収量 (活動後)}) \\
 &\quad - \text{単位延長当たりの対照区ベースライン吸収量 (活動前)} \\
 &= 0.00085 - 0.00024 \\
 &= 0.00061 \text{ t-CO}_2/\text{m}
 \end{aligned}$$

認証対象吸収量

$$\begin{aligned}
 &= \text{単位延長当たりの駆除区吸収量} \\
 &\quad \times \text{駆除区の総延長} - \text{調査に伴う CO}_2 \text{ 排出量} \\
 &= 0.00061 \times 4,528 - 0.28 \\
 &= 2.5 \text{ t-CO}_2
 \end{aligned}$$

単位延長当たりのCO₂吸収量

活動による増加量=北防波堤の増加量-西防砂堤の増加量
 申請可能な吸収量=活動による増加量×北防波堤の総延長